

昭和二十八年五月十五日 第三種
昭和四十一年十一月一日(毎月一回発行)

藝園草牧

夕張郡長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社

中央研究農場



雪印種苗株式会社

牧草害虫の天敵 I

酪農学園大学講師 坂本与市

原野では昆虫が大発生することは殆んどない。これはその自然的環境に棲むすべての生物の間に平衡が保たれているからである。しかしいったん牧草地と変ると自然界の平衡を打破るので害虫の大発生が起る。

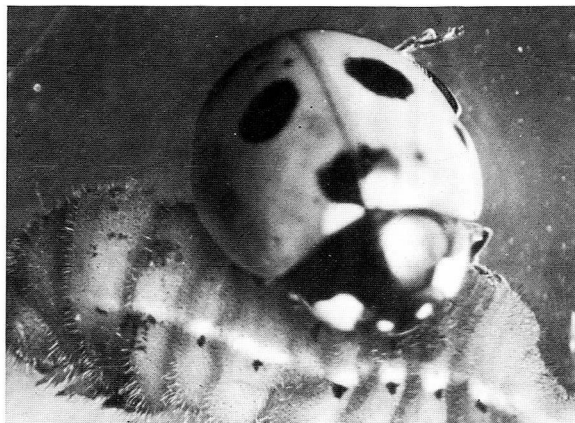
ここでは牧草の害虫を捕食する二・三の天敵をあげる。

テントウムシ類

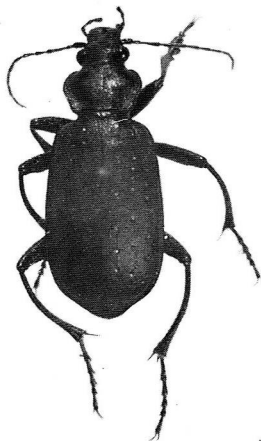
ジャガイモやナスの大害虫であるオオニジウヤホシテントウなどを除いて、一般にテントウムシ類はアブラムシなどの害虫を捕食する天敵として知られている。

北海道における牧草地にはナナホシテントウ、ジウサンホシテントウ、ヒメカメノコテントウなどが多く生息している。

ナナホシテントウはわが国に産する最も普通な種で、各地に多産し、幼成虫共にアブラムシなどを食物としている。成虫の体長は1cm弱。翅鞘は光沢のある橙黄色を呈し、7つの黒紫色紋がある。クローバー類の混播した牧草畑に特に多く棲んでいて、年数世代をくり返す。本種は一般にアブラムシ、カイガラムシの天敵として知られているが、時に他の昆虫を襲うことがある。写真は10月上旬、札幌地方のルーサン畑でモンキチョウの幼虫を食べているところを撮影したものである。



ナナホシテントウ



エゾカタビロオサムシ

クモ類

クモ類が食虫性の動物であることはよく知られている。牧草地では数十種のクモが棲息していると言われ、札幌地方のマメ科牧草とイネ科牧草の混播畑では1㎡に数頭から十数頭棲んでいて、ウンカ、ヨコバイ、メクラガメ、ハエなどを捕食しているのをよくみかける。クモは殺虫剤に対してきわめて弱く、牧草地にBHC粉剤などを散布した数日後にはほとんど採集することができない。写真はスジメクラガメを捕食しているカニグモ属の一種である。

オサムシ類

ヨトウムシ類の幼虫を捕食するオサムシ類には数種がある。なかでもエゾカタビロオサムシ、エゾオサムシ、セアオサムシ、エゾクロナガオサムシなどがよく知られている。

エゾカタビロオサムシは特に北海道で多産し、年一代。成虫態で牧草地の地中に越冬する。5月中旬から地上に出現し、7月から9月にわたり捕食活動が最も盛んになる。この虫を室内のシャーレ内に飼育すると1昼夜に数頭から十数頭のヨトウムシ幼虫を捕殺するのが観察され野外の牧草地でも喰い残したヨトウムシ類の幼虫の死骸をよくみかける。

成虫の体長は2.5cm内外で、翅鞘の背面は全体が黒色で、青銅色を帯びた金属光沢を有する。



カニグモの一種